

木の家だいきの会 通信

2017年1月発行

特定非営利活動法人 木の家だいきの会
E:Mail: office@kinoie.org
URL: http://www.kinoie.org
facebook:
http://www.facebook.com/NPO.KinoieDaisuki

■東京事務所 & 木の家づくりの相談空間
〒102-0081 東京都千代田区四番町 3-10 番町 MK ビル 301
TEL 03-6261-2970 / FAX 03-6261-2971
■所沢事務所
TEL 04-2937-7344

コラム：設計者の目

今回は、設計者・勝見紀子さんのコラムです。

木の家の建具

(株)アトリエ・ヌック建築事務所
勝見紀子



建物の出入り口・窓・収納などの、開け閉めのため動かす部分を建具（たてぐ）と呼びます。外部に接する部分では、アルミサッシが使われることが殆どですが、家の中の建具は主に木製です。

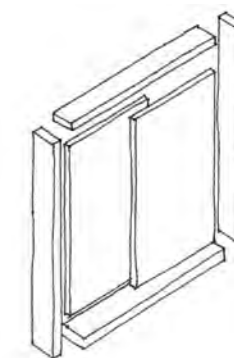


図 1

■職人がつくる

アルミサッシは、枠とガラスが組み合わされひとつの製品として取り付けられます。昨今は間仕切りに設けるドアや引き戸も、サッシと同じように枠と戸がセットになった製品を、構造体にはめ込むスタイルが増えてきたようです。（図 1）

しかし私たちのつくる木の家ではそうではありません。大工さんが建物に合わせて加工した鴨居や敷居を柱の間に取付けて四方を形づくり、建具職人が採寸・製作した建具をそこに建て込みます。日本の木造建築で長く培われてきた方法であり、大工と建具職人のコラボレーションによります。



写真 1

開放的な日本の家の、露しになった柱や梁とよく馴染み、自由なデザインが可能です。（写真 1）

■無垢の木を使って

建具はドアでも引き戸でも、角材を縦横に組み、面となる部材を張ってつくるのが基本です。無垢の木で作った建具は、剥がれやへこみなど起き難く丈夫で、年月と共に味わいが増す点は、柱や床板などの無垢の木と同じです。建具は建物に固定せず動かして使うためと、人の目に触れやすい部材ゆえ、反りや割れの起こりにくい木目の美しい良材を用います。（写真 2）

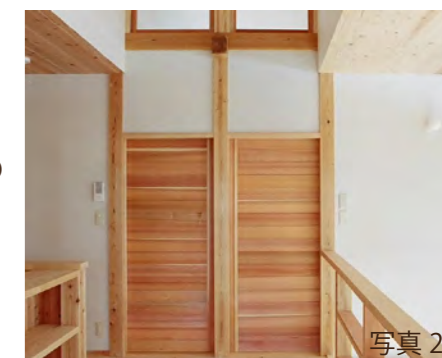


写真 2

■紙・ガラスと組み合わせて

設置する場所や用途によって、木と組み合わせて用いる材料や仕上げ方法も様々です。襖や障子は伝統的に和紙を用いてきた建具です。光を通したり建具越しの気配を伝えたい場所の建具ではガラスを組み合わせます。（写真 3,4）

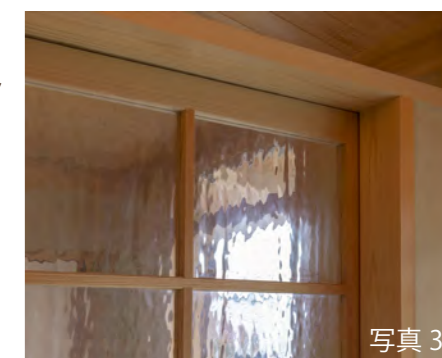


写真 3

■金物使いで開閉の方法も多様に

ドアの開け閉めに使う丁番は、古くからあるバリエーションの多い建具金物ですが、昨今は折れ戸や上吊り戸など、レールを用いた金物の発展によって、木製建具も多様な開閉が可能になってきました。

建具は建築の一部材で、風・光・音の調整などの物理的役割と共に、間取り構成やデザインイメージの要となることもある重要な部材です。既製品をはめ込むだけでない柔軟な扱いで、住み心地のよい木の家をつくっていただきたいと思います。

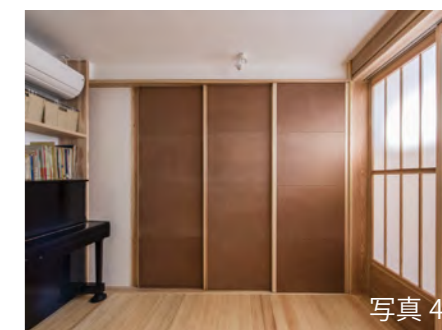


写真 4

「健康な住まい」に思いをはせる

ベネチアは、中央の大きく蛇行する大運河と路地のような無数の運河がおりなす「水の都」です。ベネチアの特徴をなす運河ですが、運河を管理する行政官は特別な職種で、就任式が18世紀までつづくベネチア共和国の元首によって取り行われ、その際には「この者の功績を讃えよ。それに相応しい報酬を与えよ。しかし、この地位にふさわしくなくなったら絞首刑に処せ。」と宣言されました。運河の管理がベネチアの生命線ともいえる重要な仕事であったためです。一見、計画がないように見える運河のかたちは一貫した原理によってつくられていたのです。

それは、恐ろしい伝染病を防ぐため、川の流れと潮の満ち引きを利用して、自然をとりこみながら水が滞留して腐らないよう、常に水の流れをつくりだすよう計画され、改善されてきました。交通手段として使うというのは二次的な目的で、「健康」な街をつくるというのが、ベネチアの都市づくりの原理で、その結果として現在のようなヒューマンスケールの魅力ある街ができたのです。



代表
鈴木 進



「断熱改修等による居住者の健康への影響調査」から得られた4つの知見

政府は「断熱改修等による居住者の健康への影響調査」を平成26年から4年間の計画で取り組んでいますが、つい最近、調査で得られた4つの知見を発表しました。

- 1) 冬季において起床時室温が低いほど、血圧が高くなる傾向がみられた。
- 2) 高齢者ほど、室温と血圧との関連が強いことが認められた。
- 3) 断熱改修によって室温が上昇し、それに伴い居住者の血圧も低下する傾向が確認された。
- 4) 居間または脱衣所の室温が18℃未満の住宅では、入浴事故リスクが高いとされる熱め入浴の確率が有意に高い。

ヒートショックは重要な政策課題となり、その対策として断熱改修等はこれまで以上に推進されることになるでしょう。「健康」な住まいづくりが、ベネチアの都市づくりのように魅力的な住まいづくりに結実するためには、どうしたらよいでしょうか。木の家だいきの会としては「自然素材の良さを最大限に生かす」というところに突破口を見出し、2017年も取り組みたいと考えています。

見学会などのご案内

2月11日（土）12日（日） 完成見学会 中庭のある都市型木の家 @練馬区石神井